

**T B Sによる補正が FRAX に与える影響についての実施のため、
当院に入院・通院された患者さんの情報を用いた医学系研究に対するご協力をお願い**

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることにより行います。匿名化が図られ個人は特定されず、また過去の診療記録情報の収集と解析にとどまるため、対象者には直接の不利益はありません。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象患者さんのお一人お一人からの直接のご同意に代えて、研究内容の情報を公開することをもって実施可能とされております。

この研究に関するお問い合わせ、ならびに、この研究内容の対象となられる方で「ご自身の診療録（カルテ）は除外してほしい」と望まれる方は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

【研究課題名】

T B Sによる補正が FRAX に与える影響について

【研究部署】神戸朝日病院 診療放射線科 骨塩定量検査室

【研究責任者】小林 久人（診療放射線科部長）

【研究の目的】

FRAX は WHO が発表した骨折リスク評価ツールで、機種名と BMD・身長・年齢・体重・問診項目を入力することで 1 0 年以内の骨折リスクが主要な骨粗鬆症性骨折（Major osteoporotic：以下 MO）と大腿骨近位部骨折（Hip fracture：以下 HF）の 2 種類が算出され、特に MO は骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2 0 1 5 年版において、脆弱性骨折を認めない軽度 Y A M 値低下症例における原発性骨粗鬆症の薬物治療開始基準に利用される重要な項目である。2024 年 1 月より骨質を加味した T B S での補正機能が追加されたが、これらの変動に関する報告はない。以上を踏まえて、本研究では TBS による補正が FRAX 値に与える影響について検討する。

【研究方法】

対象となる患者は下記の通りである。

・2023 年 11 月から 2024 年 3 月までに D E X A 法にて骨塩定量検査を行った患者のうち、警告上の正確に判定可能な範囲内の年齢、及び BMI 値であった患者を対象とする。

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接と特定できる個人情報を除いて匿名化いたしますので、個人を特定できるような情報が外部に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。この研究の対象となられる方で「ご自身の診療録（カルテ）は除外してほしい」と望まれる方は下記お問合せ先までご連絡下さい。

【問い合わせ先】

神戸朝日病院 診療放射線科 骨塩定量検査室

放射線科 大坪恵太

〒653-0801 神戸市長田区房王寺町 3-5-25

TEL:078-612-5151